

通信



第 35 号

2020 年 3 月 20 日発行
年 2 回発行

神戸女学院大学音楽学部
アウトリチ・センター

子どものための コンサート・シリーズ

クリスマス・コンサート

「子どものためのクリスマス・コンサート」届け！音楽の魔法」（子どものためのコンサート・シリーズ第五十四回）を十二月七日（土）に本学講堂で

開催しま

した（第一

部十一時

開演、第二

部十五時

半開演、各

六十分、来



場者数・第一部四百六十四名／第二部二百十五名、計六百七十九名）。出演は本学卒業生で「音楽によるアウトリチ」十七期生を中心とした「アンサンブルそらいろ」の草野舞（声楽）、山下優子（声楽）、宮下優花（ヴァイオリン）、向井千沙都（ピアノ）、齊藤明日香（ピアノ）の五名です。

今回のコンサートでは、音楽を聴く楽しさや喜びを感じてほしい、聴いたことのない曲にも触れてほしいと願って、様々な作曲家の作品をプログラムに組みました。知らない曲でも楽しんで聴いてもらえるように、消

えてしまったプレゼントを音楽と魔法の箱を使って取り戻していくという物語にのせて、小道具やプロジェクターなど視覚的な効果も活用しました。

開幕にはデュカス作曲の交響



詩（魔法使いの弟子）を二台四手ピアノで演奏しました。弟子が魔法使いの不在時に魔法を使つて制御でき

なくなってしまうという原作のストーリーに則って、このコンサートでは、サンタクロースの

手伝いでプレゼントを用意していた魔法使いのお手伝いが、間違つてプレゼントをすべて消してしまいます。「今年はプレゼントがみんなに届かないかもしれない」と思われたその時、舞台上に魔法の箱が現れます。出演者は各々願いを込めて音楽を演奏し、魔法の箱からプレゼントを取り戻していきます。



二曲目はドビュッシー作曲《小組曲》より《メヌエット》（ガストン・シヨワネル編曲）をヴァイオリンで

独奏しました。プレゼントとして現れたのはかわいい靴です。魔法の箱から靴を取り出すと、客席からは「わあ」という喜びの声が聞かれました。

続いて湯山昭作曲《お菓子の

世界」より「バウムクーヘン」をピアノ独奏して、おいしいお菓子をとり戻します。お菓子の幻想的な世界に、子どもたちも静かに聞き入っている様子でした。四曲目はモーツァルト作曲のオペラ

「コジ・ファン・トゥッテ」より二重唱「私が欲しいのは」です。

曲中で魔法



の箱からくまとうさぎのぬいぐるみを取り出す演出によって、客席の興味も引き付けられていたようでした。

その後、越部信義作曲の「おもちゃのチャチャチャ」を会場の皆さんと一緒に歌いました。「チャチャチャ」の部分では手を叩きながら元氣よく歌ってくれました。

会場の空気も温まってきたところで、ドヴォルザーク作曲のオペラ「ルサルカ」よりアリア

「月に寄せる歌」の幻想的な世界をお聴き頂き、魔法の箱からはおとぎ話の絵本が現れました。続いて、モーツァルト作曲「きらきら星変奏曲」をピアノ独奏しました。主題の部分ではピアノに合わせて童謡「きらきら星」を歌う子どもの姿も見られました。オッフェンバック作曲のオペラ「ホフマン物語」よりアリア「オランピアの歌」では、演奏者による

芝居も交えながら、ゼンマイ仕掛けの人形オランピアが歌うコロラ



トウーラのアリアをお届けしました。会場アンケートでも、「人形の歌っている様子がおもしろ

かった！」など、この曲への反響が多く見られました。

消えてしまったプレゼントをすべて無事に取り戻せたところで、会場の皆さんと一緒にクリスマスツリーを飾り付けるアクティビティを行ないました。「ひいらぎかざろう」のメロ



ディにのせて「オーナメント・ボール」「雪」「リボン」の三つのメロディを歌い、演奏を重ねることに、プロジェクターで映し出したツリーに飾り付けが加わっていきます。メロディを歌いながら簡単な振りも行なうものでしたが、説明をする前からお手本を見てまねをしてくれる人もあり、無事に飾り付けを完成させることができました。

その後、ブラームス作曲「子守歌」をヴァイオリンで独奏し、讃美歌「まきびとひつじをくもろびとこぞりて」(松尾璃奈編曲)を歌とヴァイオリン、オルガン、打楽器のアンサンブルで

お届けしました。最後に、会場の皆さんと一緒に「クリスマス・メドレー」として「ジングル・ベル」きよしこの夜く赤鼻のトナカイ」を歌いました。

あまり有名でない楽曲も積極的に取り入れたプログラムでしたが、会場アンケートで「プレゼントを取り戻して



くのがおもしろくて楽しく聴けた」といった感想が寄せられてとてもうれしく思いました。

(向井千沙都・記)

学外アウトリーチ

西宮市立用海幼稚園

十月三十日（木）、十一時から西宮市立用海幼稚園（西宮市石在町一七一・二九 園長・吉田紀子先生）にて園児を対象とする「オータム・コンサート」（四分）を行いました（ソプラノ・松井偉乃里、ヴァイオリン・藤井立空、ピアノ・金沢侑奈、勝間田萌）。

ワルツを中心にタンゴや二拍子を取り上げて、「リズムを体で感じよう！」をテーマにプログラムを考えました。少しむずかしい内容だったかもしれませんが、対象が年長さんだったのでチャレンジしました。いつもは大きなアクティビティにコンサートとのテーマを集約させることが多いのですが、今回は小さなアクティビティをプログラムの

随所に散りばめて、子どもたちが常に集中できるよう工夫しました。

ワルツでは一拍目が重いことを伝え、導入として〈ぞうさん〉に合わせて指揮を振ってもらいました。



夢で〉に合わせて、踊るように手足を動かすアクティビティをしました。憧れのお姫様や王子様のイメージで動いてくれて楽しそうでした。

二拍子ではブラームス作曲《ハンガリー舞曲》第五番を使って、曲に合わせて足踏みをしました。これは他の幼稚園実習でも盛り上がったものです。強

弱と速さの変化に応じて動きを変えるのは子どもたちにとってやはり刺激的で、全力で体一杯表現してくれて、私たちも思いつ切り音楽で遊びました。

タンゴでは〈だんご三兄弟〉を使って、特徴的なリズムを秋にまつわる言葉に置き換えて手拍子に合わせて唱えるというアクティビティをしてから、ピアノソラ作曲《リベルタンゴ》を聴いてもらいました。お洒落な曲



なので、保護者の方々の反応が特によく、子どもたちも集中して

リズムを感じて聴いてくれました。

当日は近隣のゆめっこ保育園から十九名、未就学児六名、保

護者十一名と用海幼稚園の園児十三名と先生方を含め、計五十名以上の方がコンサートに参加して下さいました。私にとって初めてのアウトリーチ実習で大変緊張しましたが、一生懸命考えたプログラムだったので、多くの人来て頂き、喜んで頂けてうれしかったです。

（勝間田萌・記）



野木病院

十一月二日(土) 十三時十五分から医療法人社団佳生会野木病院サービス付き高齢者向け住宅「あけの」(兵庫県明石市魚住町長坂寺一〇〇三一一)にて「オータム・コンサート」(芸術の秋・世界の音楽) (六十分)を行いました(声楽・安川陽菜、ピアノ・井本斐、勝間田萌、ヴァイオリン・松田真緒、コントラバス・岩崎朱夏)。

コンサートを通してさまざまな国の音楽に触れて、芸術の秋を楽しんでもらえるようなプログラムを考えました。まずはイタリアのプッチーニ作曲の歌劇《ラ・ボエーム》よりアリア《私が街を歩くとき》で華やかにスタートしました。次にフランスのサン＝サーンス作曲《動物の謝肉祭》より《白鳥》をコントラバスで、続いてオー

ストリアの作曲家クライスラーの《愛の悲しみ》をヴァイオリンで演奏しました。日本の



《秋メドレー》(紅葉のこの道、村祭り、見上げてごらん夜の星を)では、

ロずさんで揺れながら聴いて下さいました。次に《アメijing・グレイス》を歌とピアノ、ヴァイオリン、コントラバスで演奏。《幸せなら手をたたこう》では、手やお腹を叩く、肩を回すなどいろいろな動きを取り入れてアクティビティをしました。多くの方が参加して下さいました。

後半の一曲目には、ドビュッシー作曲《月の光》をピアノ独奏しました。秋の風物詩である

月にちなんで、

フランスの月の光を描いた曲を取り上げまし



た。次にアイルランドの伝統音楽《アイリッシュ・ジグ》をヴァイオリンとコントラバスで、続いてアルゼンチンの作曲家ピアソラの《リベルタンゴ》をピアノ連弾で演奏しました。この曲は細かい旋律があり、音域も幅広く、皆さんも驚いた様子



でした。最後にロシアの作曲家チャイコフスキーのバレ

エ音楽《くるみ割り人形》より《花のワルツ》をピアノ連弾とヴァイオリン、コントラバスで演奏しました。ご存知の方も多く、歓声とともに拍手を頂けてとてもうれしかったです。《上を向いて歩こう》と《ふるさと》をみなさんと一緒に歌ってコンサートを結びました。

退場の際、「ありがとう、来年も来てね」や「今日が誕生日で、とてもすてきな日になったよ」とのお言葉を頂き、皆さんと音楽を楽しめたことに幸せを感じました。



(岩崎朱夏・記)

大阪市立総合医療センター

十一月七日（木）十三時四十分から大阪市立総合医療センター（大阪市都島区都島本通二―十三―二十二）のさくらホールにて「オータム・コンサート」（四十五分）を行いました（声楽・松井偉乃里、フルート・磯貝瑛里、ヴァイオリン・藤井立空、コントラバス・岩崎朱夏、ピアノ・勝間田萌、井本斐）。

この実習では「芸術の秋・世界の音楽」と題して、秋の季節感を耳から感じると共に、八か国の音楽を独唱・独奏からアンサンブルまでさまざまな響きで楽しんで頂きたいと思つてプログラム



を考えた。初めに各楽器のソ

ロをお届けしました。まずフルートでイギリスのエルガー作曲《愛の挨拶》、続いてソプラノ独唱でイタリアのプッチーニ作曲



の歌劇《ラ・ボエーム》より《私が街を歩けば》、コントラバス

でフランスのサン＝サーンス作曲の組曲《動物の謝肉祭》より《白鳥》、ヴァイオリン



でドイツのブラームス作曲《ハンガリー舞曲》第五番を演奏しました。

ここで日本の秋にまつわる歌を四曲、岡野貞一《紅葉》、山田耕筰《この道》、南能衛《村祭》、いずみたく《見上げてごらん夜の星を》を《秋メドレー》とし

てお送りしました。聴きながら口ずさんでくださる方もあつてうれしかったです。次は秋の風物詩の一つとして月を取り上げ、ドビュッシー作曲《月の光》をピアノ独奏しました。

ここからは全てアンサンブルです。まず、讃美歌《アメイジング・グレイス》を歌とフルート、ヴァイオリン、ピアノで演奏しました。



続いて、アルゼンチンのピアソラ作曲《リベルタンゴ》をピアノ連弾で、アイランドの伝統舞曲《ジグ》をピッコロとヴァイオリン、コントラバスで、ロシアのチャイコフスキー作曲のバレエ《くるみ割り人形》より《花のワルツ》をフルートと

ヴァイオリン、コントラバス、ピアノ連弾で演奏しました。

最後は中村八大《上を向いて歩こう》、

岡野貞一《故郷》を続けて

演奏し、会場の皆様にも一緒に歌って頂きました。アンコールを頂いたので、再び《見上げてごらん夜の星を》を全員で演奏し、コンサートを終えました。

曲によってお客様の反応もさまざまで、私たちも楽しんで演奏することができました。会場の響き方に合わせた演奏法や本番内の時間管理等、課題もたくさん見つかつて、学びの多い実習になりました。

（井本斐・記）



西宮市立子育て総合センター 付属あおぞら幼稚園

十一月十四日（木）十時から
西宮市立子育て総合センター付
属あおぞら幼稚園（西宮市津田
町三十四、園長・河崎祥子先
生）にて、園児・乳幼児・保護
者対象の「秋のコンサート」（四
十分）を行いました（声楽・松
井偉乃里、クラリネット・反田
沙耶、ピアノ・小川瑞葵）。「秋
と言えば〇〇」をテーマに、い
ろいろな秋を知ってもらえるよ
うなコンサートにしました。

始まりは、これから秋を探す
旅に出か
けるとい
うことで、
久石譲作
曲の「さ
んぽ」を
皆で歌い
ました。



次は「読書の秋」として、歌に
お話がついているマーラー作曲
《少年の魔法の角笛》より《高
い知性を讃えて》をドイツ語で
歌いました。クラリネットの楽
器紹介をしてから、シュタイナ
ー作曲《だんだん小さく》を演
奏。この



曲は楽器
を次々に
分解して
いくもの
で、結局
いくつに
分かれた

のかを、演奏後に組み立てなが
ら子どもたちと一緒に数えまし
た。「秋の生き物」として《赤と
んぼ》をソプラノ独唱し、ブラ
ームス作曲《ハンガリー舞曲》
第五番を使つてのアクティビテ
イでは、体を動かしながら音の
強弱やテンポの変化を感じても
うりました。「芸術の秋」では、



ピアノの
楽器紹介
をしてか
らクレメ
ンティ作
曲《ピア
ノ・ソナ
タ》を、

「運動の秋」では、運動会でお
馴染みのオッフェンバック作曲
《天国と地獄》をクラリネット
独奏で演奏しました。

子どもたちと一緒に《どんぐ
りころころ》と《夕焼け小焼け》
を歌い、次に出演者のみで《も
みじ》を歌いました。ここでコ



ンサート
が終了す
る計画だ
ったので
すが、私
たちが予
想してい
たよりも

子どもたちが集中して演奏を聴
いてくれたお蔭で五分ほど時間
が余ったため、秋を探しに行く
旅の締め括りとして、もう一度、
会場の皆さんと《さんぽ》を歌
つてコンサートを終了しました。



四十分のコンサートは子ども
たちには少し長いのではないか
と思つて
いたので
すが、真
剣に聞い
てくれて
いる姿を
見て、子
どもたち
が興味を持ってくれているのだ
ととてもうれしく感じました。

（反田沙耶・記）



兵庫中央病院

十一月二十一日（木）十三時半から独立行政法人国立病院機構兵庫中央病院（兵庫県三田市大原一三三四）病棟三階デイルームにて「オータムコンサート〜芸術の秋・世界の音楽〜」（四十五分）を行いました（声楽・別所香穂、フルート・磯貝瑛里、ヴァイオリン・藤井立空、ピアノ・井本斐、勝間田萌）。

今回は「芸術の秋・世界の音楽」をテーマに世界にはこんなにすてきな音楽があるということを知ってもらうのを目的としてプログラムを構成しました。



まずは皆様に馴染みのある日本の秋の曲として、岡野貞一作曲《紅葉》を

ピアノと歌にヴァイオリンを加えてお聴き頂いた後、ドイツのブラームス作曲《ハンガリー舞曲》第五番をヴァイオリン独奏しました。次に、イタリアのトスティ作曲の歌曲《薔薇》を独唱し、イギリスのエルガー作曲《愛の挨拶》をフルートで独奏しました。続いては、また日本に戻り、山田耕筰《赤とんぼ》と《この道》、文部省唱歌の《村祭》、坂本九の代表曲《見上げてごらん夜の星を》を《秋メドレー》としてピアノとフルート、ヴァイオリン、歌に小物楽器を加えた編成で披露しました。笑顔で歌ってくださる方や、身体を揺らして聴いてくださる方が見受けら



れ、温かい雰囲気になりました。次は、フランスのドビュッシー作曲《月の光》をピアノ独奏し、美しい月を思い浮かべて聴いて頂きました。雰囲気を変えて、アイルランドの伝統的な舞曲《アイリッシュ・ジグ》をピッコロとクラリネット、ヴァイオリンという珍しい編成でお届けした後、アルゼンチンのピアソラ作曲《ヘリベルタンゴ》をピアノ連弾して異国情緒溢れるリズムを楽しんで頂きました。続いて、ジャズ・テイストに編曲した《アメイジング・グレイス》をピアノとフルート、ヴァイオリン、歌の編成でお聴き頂いた後、ロシアのチャイコフスキー作曲《バレエ音楽《くるみ割り人形》よ



り《花のワルツ》をピアノ連弾とフルート、ヴァイオリンの編成で華やかに演奏しました。最後に、坂本九のヒット曲《上を向いて歩こう》、岡野貞一作曲《ふるさと》を会場の皆様と歌ってコンサートを終えました。



間となりました。

（磯貝瑛里・記）

終演後には「ありがとうございました」といったお声をたくさん掛けて頂き、心温まる時



雲雀丘学園小学校

十二月十三日（金）、雲雀丘学園小学校（宝塚市雲雀丘四―二

―一、音楽教諭・山本雅子先生、岡村圭一郎先生）にて四年生四

クラスを対象とした実習（各四十分）を行いました（ピアノ・

井本斐、原双葉、声楽・松井偉

乃里、安川陽菜、フルート・磯

貝瑛里、クラリネット・反田沙

耶、コントラバス・岩崎朱夏）。

「モーツァルトの魅力ってな

んだらう？」をテーマに、演奏

する全ての曲をモーツァルトの

作品から取り上げ、彼の作品の

魅力の一つ

であるメロ

ディーの豊

かさを感じ

取ってもら

えるような

プログラム

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

興味津々

作りを心掛

興味津々

と音色に

興味津々

と音色に

子どものための 音楽作りワークショップ



九月二十一日（土）「第十回 音で遊ぶう！子どものための音楽作りワークショップ」を本学音楽館ホール

にて行いました。
午前九時半に初めて顔を合わせて、アイデアを出し合って、この世にない音楽を生み出して、組み合わせて完成させて、十五時前には保護者兄弟友人を呼んで、世界初演の曲の発表会をする……。こんな奇跡を見るのも何回目でしょうか。決して当たり前ではありませんが、私たちの誰もが持っている「無限の可能性」に毎度感動します。

これは学生対象の「音楽作り



「宇宙（楽器）」「ジャングル（リズム隊）」の三つのグループに分かれて音楽作りを進めま

ワークショップ特別研修」を、九月十七日から五日間行い、その仕上げとして最終日に子どもたちの参加を得て開催されたものです。講師はイギリスから招聘されたナターシャ・ジェラジンスキとデッタ・ダンフォード（両者とも英国ギルドホール音楽院リーダー・シップ修士を修了後、世界で活躍する音楽家）。参加者は、学生十三名、卒業生一名、小学校一～五年生の子ども二十三名の計三十七名でした。初めに全員で音楽づくりの柱となるパーツを共有し、そこから想像を膨らませて、「海（歌）」



ました。ひとつの物語ができた

後、また別の種類の物語を考えるに当たり、前の音楽の世界との切り替えが子

した。どのグループも予想外に難航したようですが、それこそがこのワークショップの醍醐味だと思います。



私はジャン

グルのグループで、そこに暮らす動物たちの物語に想いを馳せて音楽に表現し



どもたちにとってむずかしかったように感じました。そこで、実際に動物の気持ちになって踊って見たらとても効果的で、そこからまた新しい音楽が生まれた瞬間は感動的でした。

最初は「冒険」というキーワードで音楽作りが進んでいましたが、「幽霊船」「海賊船」など多くの意見が出て紆余曲折の末、完成した曲には『ALIEN JOURNEY（宇宙人の旅）』というタイトルがつけました。どのパートにも参加者全員に見せ場があり、発表会を終えた後の子どもたちの満足気な顔を見てこちらも幸せになりました。何よりも参加者全員がこの曲を大好きになっていると会場全体で感じる、そんな音ができたことをうれしく思いました。

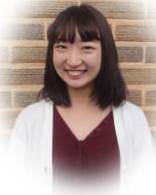
（勝間田萌・記）

履修生紹介

四年生（十八期生八名）からの

メッセージ

藤井 立空（英文学科）



私はアウトリーチを履修して、限られた時間の中で物事を進める姿

勢を学びました。初めは演奏するだけで精一杯だったのですが、実習を重ねるごとに自分が今何をするべきかを考えて動くことができるようになりました。アウトリーチ実習の本番では、聴衆の反応が生の声で聞けることが一つの特徴です。音楽に興味を持ってもらうためのプログラムを考えることがとてもむずかしく苦労したこともありましたが、この実習を通して、聴く人のことを一番に考える演奏会作りを学べたことは貴重な経験だったと思います。

井本 斐（ピアノ）



私はアウトリーチを履修して、「どんな時もお客様に最高のモノを

届ける」という音楽家としての心構えを見つめ直すことができたと思います。「自分が何をしたいか」ではなく「どんなことがお客様に伝わってほしいか」という視点で考えることは新鮮でしたが、非常に大切なことだと学ぶことができました。メンバー間で意見がぶつかることも、思わぬハプニングに見舞われることも多々あり、常に崖っぷちに立っているような状態だった気がしますが、学生の間に貴重な経験をさせて頂けて感謝の気持ちでいっぱいです。

磯貝 瑛里（フルート）

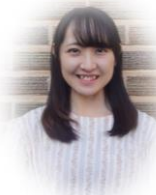


この授業は、ただ音楽を演奏するのではなく、どのよ

うなことを、どのように伝えるかということを深く学ぶことができる機会

となりました。一からプログラム構成やMCを考えるのは責任のある大変な作業で、思い悩む日も多かったですが、しかし、実習先で実際に演奏をするとお客様との距離が近いので笑顔で歌ってくださる方や、泣いてくださっている方が見え、最後に大きな拍手を頂けた時の達成感は、今まで経験したことのないほど大きなものでした。この授業でしか学べないことがたくさんあったので、履修してよかったと思います。

岩崎 朱夏（コントラバス）



プログラム構成では、自分本位な選曲は許さず、揺る

がない大きな軸を立てることが必須であることを学びました。一から作り上げる大変さはもちろん、価値観や考え方、進め方が各々にあり、メンバーとぶつかることも多々あります。限られた時間の中で計画を立てて進めることの大切さを感じ、メンバーたちと試行錯誤しました。苦しいことが多いのは間違いないと思いますが、確実に自分自身を成長させることのできる授業

勝間田 萌（ピアノ）



前期にどの実習に行くか決める時、子ども向けのプログラムをた

くさんしたいと意気込んでいましたが、実際行った実習は幼稚園一回、病院四回でした。病院での実習経験は「もしかしたら、これが今生で聴く最後の演奏になるかもしれない」というプレッシャーがあり、非常に考えさせられました。同じプログラムを対象と場所を少しずつ変えて何回も行うことは新鮮でおもしろかったです。アウトリーチは私を大きく成長させてくれたと実感しています。みなさんも常に新しい挑戦を続けて充実した学生生活を送ってください。

松井 偉乃里（声楽）



アウトリーチ実習を通して多くの学びがありました。

コンサートを作るには、一番にお客様に喜んで頂くために、お客様の立場に立つて考えることや、テーマを軸に理解しやすいプログラムを構成すること、そして自らが音楽を知り、心に響く演奏をめざしてしっかりと準備をすることが重要であると感じました。自分たちの演奏でお客様が喜んでくださり、涙を流して聴いてくださったことが忘れられません。お客様との一期一会を大切に音楽と向き合いたいと思えました。アウトリーチ実習はおお客様の反応を肌で感じられて、私にとってかけがえのない経験になりました。

反田 沙耶 (クラリネット)



今までは演奏だけに集中していたところに、どんなコンサートにした

のか・選曲・話し方・小道具等、さまざまなことをしなければなりません。コンサートを一から作ることをしななかったもので、全てが新鮮でした。先輩方がおっしゃっていたように、アウトリーチはとて大変な授業でし

た。しかし限られた時間で準備をし、コンサート終了後、笑顔で帰る子どもたちや「楽しかったよ」と言ってくれた時は、幸せな気持ちになりました。とても貴重な経験をさせて頂けたと思います。

安川 陽菜 (声楽)



振り返ると決して楽しい思い出ばかりではありません。

が、アウトリーチの実習を通してたくさんのことを学びました。単なる演奏会形式ではなく、MCやアクティビティを取り込むことの重要さや、主軸の通ったプログラム構成のむずかしさ、意見の相違やスケジューリングなど、演奏以外にもたくさんの時間を割いたように思います。最初は戸惑うことも多かったのですが、実習を重ねるにつれてよい意味で慣れ、メンバーの協調性が高まったように感じました。この授業では音楽家として役立つ経験とスキル、また頑張った分だけ達成感を得ることができます。皆さんも、是非履修してみてください。

「音楽によるアウトリーチ (講義)」

履修生 (三回生九名)

声楽 小形芽生

ピアノ 佐々木里緒

ヴァイオリン 藤井耀蒼、小島香奈

中原真依、野地紗由美

玉置華

クラリネット 山田安里

作曲 鳩山冨映



アウトリーチ要員からのメッセージ

谷田 奈央さん (五期生)



今年の
履修生は
専攻のバ
ラエティ
も豊かで、

MCも聴き取りやすく、話すことが上手な学年でした。なかなかお尻に火がつかずヒヤヒヤする場面もありましたが、実習はいつも一番よい状態で臨めました。この一年での経験が卒業後も役立つことが必ずあると思います。どんな場面でも聴き手のことをまず考えてみてください。最後に、この三月でアウトリーチ要員としての満期五年を迎えます。このようなお役目をお与えくださった津上先生には感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。

2019年度 実習歴

- 6月12日 (水) 西宮市立門戸幼稚園アウトリーチ
7月 6日 (土) 子どものための七夕コンサート(シリーズ第 53 回)
9月21日 (土) 第10回 「音楽で遊ぼう! 子どものための音楽作りワークショップ」
10月30日 (水) 西宮市立用海幼稚園アウトリーチ
11月 2日 (土) 野木病院アウトリーチ
11月 7日 (木) 大阪市民病院機構 大阪市立総合医療センターアウトリーチ
11月14日 (木) 西宮市立子育て総合センター附属あおぞら幼稚園アウトリーチ
11月21日 (木) 国立病院機構 兵庫中央病院アウトリーチ
12月 7日 (土) 子どものためのクリスマス・コンサート(シリーズ第 54 回)
12月13日 (金) 雲雀丘学園小学校アウトリーチ
2月 8日 (土) 子どものためのオルガン・コンサート(シリーズ第 55 回)
3月 4日 (水) 国立病院機構 大阪刀根山医療センターアウトリーチ

音楽をお届けします!!

「アウトリーチ」とは、「一歩踏み出すこと」「手をさしのべること」。

大学やホールといった従来の枠にとらわれずに、社会のさまざまな場ですてきな音楽のプログラムをお届けします。

♪ **小中学校へ**: 総合的学習支援プログラムとして、
♪ **病院や美術館へ**: 催しの趣旨に沿った手作りの音楽
子どものための楽しい体験学習を! プログラムを、心をこめてお届けします。

お問い合わせは…

神戸女学院大学音楽学部 アウトリーチ・センター(月～金 10:00～15:00)
〒662-8505 西宮市岡田山 4-1 TEL: 0798-51-8584 FAX: 0798-51-8551
E-mail: outreach@mail.kobe-c.ac.jp <https://www.kobe-c.ac.jp/musicdp/outreach/>

編集後記

この1年もあっという間でした。学生さんや関わってくださる方と共に、成長し続けるスタッフでありたいと思います♪(丹野)
10月より再びセンターに勤務しております。来年度も皆さんにたくさんの音楽をお届けできるように頑張ります!(森)
各実習でリーダーを務める学生にかかる重圧を如何に軽減するかが今後の大きな課題です(編集長:津上)